

秋 春

測量の父・伊能忠敬の作った日本地図は、時に思いもよらぬ登場のしかたをする。幕末には

シーボルトが手写して持ち出した蝦夷地図がヨーロッパで出版され、その正確さが世界を驚かせた。今度は欠落していた「大日本沿海輿地全図」の写しが米国で見つかったという。

▼縮尺の違う三種の伊能図のうち最も詳細なのが、二百十四枚に分けて全国を描いた大図。これまで六十枚ほどしか確認されていなかったが、新たに二百六枚がワシントンの米国議会図書館で発見された。全容復元で江戸末期の地理や測量技術が知れるだけでなく、流出経緯のなぞ解きも話題を呼びそうだ。シーボルト事件のようなスパイめいた秘話とは無縁なのだろうか。

▼晩学ゆえに今や「中年の星」ともなった忠敬については、秋に銅像もできる。場所は十回の測量行の度、無事を祈願した東京・江東区の富岡八幡宮境内だ。傍らには測量のパイオニアにあやかっつて三角点を兼ねたモニュメント。先の国会で成立した改正測量法で、日本の緯度・経度の測地体系を世界基準に合わせる事が決まった記念という。

▼これまで日本の地図の緯度・経度は、多くの外国地図のそれと比べて、四百―五百デズレしていた。その修正はかねての懸案だったが、来春から正式に改める。早くから西洋暦学に目覚め、その業績評価も地図の所在も地球規模にわたる忠敬だけに、遅ればせのドメスティック路線返上に地下でホツとしているだろう。

01. 7. 6. 日 五